

富山湾の海の生き物を守るために 私たちに何ができるか



高岡高等学校 27班 川村洸太 黒崎稜太 長井涼大 林大輔

1.はじめに

近年、深刻化する海洋汚染により海の生き物が減少している。そこで、海洋汚染の原因であるごみに着目し、現状を改善する方法を考える。

2.研究仮説

海洋ごみを減らせれば、海の生き物を守れるのではないかと仮説を立てた。



3.海岸調査 藪田海岸 海老江海岸 六渡寺海岸

(調査から分かったこと)

- ペットボトルや空き缶などが多い
- 家庭からのごみがほとんど
- 広報活動のあとごみが減った
- 河川からのごみが流れ着いている
- ごみの八割は県内の河川からのもの
- どの海岸でもごみの種類は同じ

品目上位10種(個数ベース)		
No	品目	割合
1	ボトルのキャップ、ふた	17.6%
2	プラ製ロープ・ひも	16.6%
3	木材(物流用パレット、木炭等含む)	9.2%
4	飲料用ペットボトル(2L未満)	6.9%
5	プラ製漁具(その他)	4.2%
6	プラ製食品容器(カップ等)	4.0%
7	プラ製荷造りバンド・ビニールテープ	3.7%
8	ウレタン	3.5%
9	プラ製食器(マイクロウェーブ対応、メラミナイフ)	3.5%
10	プラ製フイ	3.2%

(出典：海洋ごみ実態調査(平成22～令和元年度)のとりまとめについて(環境省))

一人一人がごみを無くす意識が富山湾の環境を守ることに
つながるのではないかと仮説を立てた。

4.対策 富山県が推奨するアプリ「ピリカ」に注目した

現状

- 富山県のピリカへの参加人数は全国でもトップクラスだが認知度は低い
- ゴミを拾うことに対する報酬が少ない

ピリカとは？

ゴミを拾い画像を投稿することで世界中から「ありがとう」がもらえるアプリ



改善案

認知度を高めるために地域や企業と連携する

➡ ゴミを拾うことで地域で使えるポイントなどの報酬が受け取れるようになれば利用者が増え、清掃活動と商業活動の両方の活性化するのではないかと仮説を立てた。

皆さんがごみを無くす意識を持てば現状は変わります。
まずは自分のことから始めていきましょう！

